BOOK TRAIN（ブック トレイン）

『願いごとの樹』

キャサリン・アップルゲイト/作
尾高　薫/訳
偕成社

「人に話しかけてはならない」自然界の掟を守り続けてきた木・レッド。願いごとを結びつけると叶うと言い伝えられ、長年、町の人たちに慕われてきた。ところが、ある事件がきっかけで、レッドの身に危機が迫る。そんな中、少女サマールの「友だちがほしい」という願いを知り、レッドはついに行動を起こす。木の視点で人間社会を見つめた物語。

『ハジメテヒラク』

こまつ　あやこ/著
講談社

失言が原因で仲間外れになったあみに、従姉の早月が学校でのとっておきの過ごし方を教えてくれた。それはクラスメイトを観察して心の中で実況する「脳内実況」。だが失言を恐れるあまり、あみは会話が苦手になってしまう。中学生になり、入部した生け花部で、個性的な部員たちの悩みや魅力に触れ、次第に自らの殻を破っていく。

『ハクトウワシ』

前川　貴行/写真・文
新日本出版社

カナダ・ニューファンドランド島の過酷な環境で生きる、黒く大きな鳥ハクトウワシ。彼らは雨風が吹き付ける断崖に巣を作り、子育てをする。雛が巣立つまでの三カ月間に密着し、断崖に通い続けた作者が大迫力の写真に収めた。かつて絶滅寸前まで追い込まれたハクトウワシがたくましく生き抜き、命をつないでいく姿を伝えている。

『秘密のノート』

ジョー・コットリル/作
杉田 七重/訳
小学館

モノマネ上手なジェリーはコンプレックスもネタにして、クラスメイトを笑わせている。しかし、心の内は繊細で、打ち明けられないつらい思いを詩にして一冊のノートに綴る。見せかけの自分と本当の自分。ジェリーは秘密をある人に打ち明けることにした。自分自身と向き合う彼女の姿は、困難に立ち向かう勇気をくれる。あなたなら、秘密のノートに何を書く？

『〈死に森〉の白いオオカミ』

グリゴーリー・ディーコフ/作
ディム・レシコフ/絵
相場 妙/訳
徳間書店

昔、川を下ってきた人々が住みついたロシアの小さな村では、まわりの森を焼きはらって土地を広げてきた。しかし「化けものが住んでいる、手をつけてはいかん」という老人の言葉も聞かず、とうとう村人は川のむこうの森を焼き尽くしてしまう。焼かれた森は〈死に森〉と呼ばれるようになった。そして凍てつく冬、オオカミの群れが村人を襲い始める。

『はずれ者が進化をつくる』

生き物をめぐる個性の秘密

稲垣 栄洋/著
筑摩書房

オナモミの実は大きさの異なる種子を二つ持っていて、環境によってどちらかが確実に芽を出せるようにしている。人間から見るとはずれ者に見えるものが、条件によっては優れた能力を発揮するかもしれない。だから生き物はたくさんの解答を作り続ける・・・それが多様性。自然界は個性にあふれている。大きな環境の変化に適応するために必要なものは何？

『明日をさがす旅』

故郷を追われた子どもたち

アラン・グラッツ/作
さくま ゆみこ/訳
福音館書店

家族と暮らし、学校へ行く。もしもこの日常が、突然明日からなくなってしまったら？ ドイツに住むヨーゼフも、キューバのイザベルも、シリアのマフムードも、普通の子どもだった。しかし、戦争、人種差別、独裁、内戦によって故郷を追われ、難民となる。彼らが進む先にある未来とは。三人の物語が並行して語られる、事実に基づいたフィクション。